

○平成30年度 第1回紀宝町まち・ひと・しごと創生会議 効果検証
各委員の意見

1. 総合戦略の効果検証について（資料3）

委員：転入と転出について、内訳について理由を分析する必要がある。社会減は避けられない。データ分析はできているのか。

事務局：人口ビジョンに転入先や転出先の示したものがあある。新宮市への転入や転出が多い状況。学生が高校卒業時に転出し、その後一部戻ってくるという結果もある。

委員：5歳階級別の転入数や転出数でも確認できる。

委員：農林水産業の振興として、6次産業化など挙げているが、農林水産業が産業として成り立っていける事例などあれば教えて欲しい。

事務局：農業者の働く場の取り組みとしては、国の事業を活用して新規就農者の支援も行っている。6次産業化については認定農業者等に対して自ら製造販売することについても支援を行っている。

委員：他の地域もそうだが、働く場の創出の中で人材不足や人手が足りないといった事業者が多いというのが実態だと思うがこちらの地域はどうか。人材がなかなか集まらないという問題もあると思うが、その点はどう考えているか。

事務局：当地域においても人材不足という懸案はある。有効求人倍率は全国比でも良い水準を保っているが、職業や職種を選ぶ傾向もあって就業につながっていない面もある。町では井内工業団地に町内企業が進出していただいて雇用が増えている状況がある。新たに大企業が進出するという現在の状況では難しいので、今ある企業への応援なども行政として取り組んでいきたい。

委員：青森県藤崎町との連携は具体的にどういうことを行ったか。

事務局：藤崎町では食彩ときわ館という直売所を改修するにあたって、冬場の商品の増強のため、各地域との連携を模索していたときに紀宝町が紹介され、連携が始まった。藤崎町のリンゴと紀宝町の柑橘類等の連携について農家同士で話し合っていたきながら商品開発なども進めている。

委員：地元の高校の先生と話をする、卒業後の就職は地元に残りたいという生徒が多いとのこと。初任給が都会のほうが高いのでどうしてもそちらに行ってしまう実情がある。ただ、地元の方が生活費がやすく、環境もいいということをもっと情報を伝えていきたいと考えている。

委員：地域おこし協力隊について、現在4名が活動されているが、今後紀宝町で増やしていく予定はあるのか。ある場合どの様な分野で増やすのか。

事務局：現在は企画調整課関係で採用しているが、他の分野での希望は現在のところない。増やす予定も今のところない。

2. 平成29年度 地方創生交付金事業の効果検証について（資料4関係）

平成30年度 地方創生交付金事業について（資料4関係）

委員：子育て移住関係の都市部の広域連携 PR で、30年の予算額が3倍になっているが、具体的にはどのようなことを行うのか。

事務局：移住のパンフレット作成費が増えているための増額となっている。移住相談会への参加も予定しているが、こちらは、昨年度からの継続となっている。

委員：KPI で移住者数の目標が超えているが広域ということなので、どの市町の実績が高いのか。

事務局：東紀州5市町での実績となっており、尾鷲市が一番多くなっている。

委員：飛雪の滝キャンプ場について、4月27日オープンとのことで、利用状況や今後の予約状況はどうなっているか。

事務局：ゴールデンウィークや連休利用が多い。オープンから6月末で日帰り客を含め3,264人の利用があった。夏休みが一番のハイシーズンとなるが、HPを作成して予約を受けているが、お盆周辺の予約が多い。冬場の閑散期の稼働率を上げる取り組みを行っていききたい。

委員：信用金庫の職員が研修で本日宿泊させていただいている。30年度の年間利用 目標はどのように定めているか。

事務局：30年度では、年間12,000人の利用目標と、歳入予算では宿泊で400万円。物産販売やアクティビティでも収入を上げていきたいと考えている。

委員：どこの人か分からない移住者を1人増やすより、地元の子どもを給料が安くてもこの身内が近くにいることなど地域で働くメリットを伝え、地元に残していくことが必要と考えている。県としても、地元の企業を学生と回ったりしているが、学生に近い役場の職員が学生に伝える活動も有効ではないかと考える。

事務局：地元の学生に地元の企業を PR するような工夫も行っていきたい。

中学校では2年生が地元企業に協力いただき職場体験を行っている。

委員：今年度、三重県商工会連合会で地元の企業を集めて地元の企業を PR する取り組みを始める。紀南高校ではインターンシップで1年間通じて地元企業に派遣する事業を行っているが、派遣先に就職する学生も出てきている。地元に残る気持ちの芽生えにつながっている。

以上。

資料につきましては、当ページの関係資料をご覧ください。

平成30年度 第1回紀宝町まち・ひと・しごと創生会議 事項書

日時：平成30年7月6日（金）

午後7時00分から

会場：紀宝町役場2階 大会議室

（事 項）

1. 開会（資料1・2）

2. 会長あいさつ

3. 委員紹介

4. 総合戦略の効果検証について（資料3）

5. 平成29年度 地方創生交付金事業の効果検証について（資料4関係）

6. 平成30年度 地方創生交付金事業について（資料4関係）

7. その他

紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略

－平成29年度事業実施状況－

平成30年7月

紀宝町

■紀宝町の人口等の動向

①総人口の動向

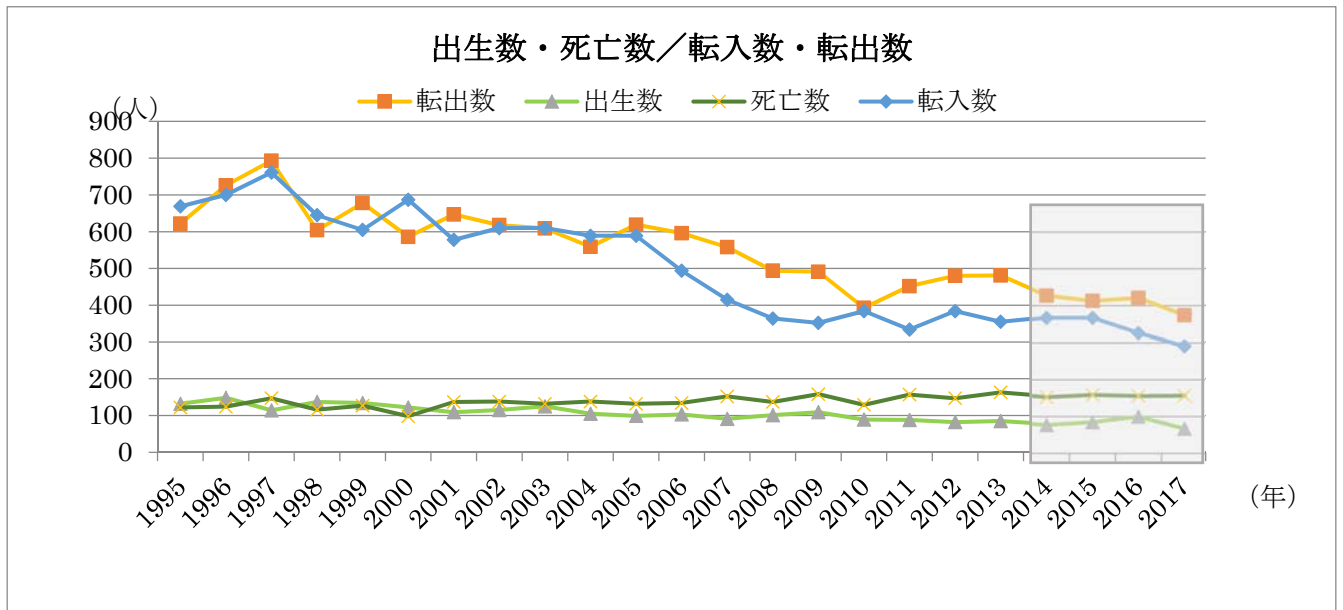
総合戦略では、2010年までは国勢調査の実績値、2015年以降は、社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計値を記載しております。

社人研の2015年人口推計値は、11,215人となっておりますが、2015年国勢調査の確定値は11,207人でありましたので、推計値に近い動態となっております。しかしながら、紀宝町の住民基本台帳による平成29年12月末の総人口は11,219人となっており、昨年から167人減少し、また、社人研推計値は平成30年3月にさらに下方修正が発表されるなど、人口減少問題はつづいており、将来に対する備えが必要な状況です。

②出生数・死亡数、転入数・転出数の状況

出生数・死亡数、転入数・転出数の状況は次のとおりです。

2017年の転入者が291人、転出者が374人ですので、83人の社会減、また、出生者数が67人、死亡者数が157人ですので、90人の自然減、併せて173人の人口減となっております。



年	転入数	転出数	出生数	死亡数	減少数
2014	367	427	77	153	△136
2015	366	413	85	159	△121
2016	326	421	100	156	△151
2017	291	374	67	157	△173

③事業所数の増減

2012年から2014年にかけて、町内の事業所は全体で2件の減少となっております。

産業大分類	2012年	2014年	増減
農業、林業	8	10	2
漁業	0	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業	0	1	1
建設業	94	93	-1
製造業	34	33	-1
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0
情報通信業	1	0	-1
運輸業、郵便業	6	4	-2
卸売業、小売業	98	96	-2
金融業、保険業	4	4	0
不動産業、物品賃貸業	32	34	2
学術研究、専門・技術サービス業	10	10	0
宿泊業、飲食サービス業	42	42	0
生活関連サービス業、娯楽業	48	43	-5
教育、学習支援業	15	14	-1
医療、福祉	29	31	2
複合サービス業	7	8	1
サービス業（他に分類されないもの）	31	34	3
合計	459	457	-2

※資料：地域経済分析システム（RESUS）

④合計特殊出生率の推移

2015年の町の合計特殊出生率は、1.72、三重県1.56、全国1.45、2016年の町の合計特殊出生率は1.95、三重県1.51、全国1.44となっております。

⑤未婚率の県内比較

2015年国勢調査の結果をみると、県内29市町のうち、紀宝町は男性25位（未婚率42.7%）、女性23位（未婚率31.0%）となっております。

総合戦略編

■基本目標 1 安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」

成果指標（アウトカム指標）

成果指標	従前値	実績値	目標値
合計特殊出生率	1.76 H18年～25年度平均	1.95 (H28年度)	1.9以上 H27年～31年度平均

1. 安心して子どもを産むことができる環境の充実

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
妊婦家庭訪問率	未実施 (H27年度)	78.2%	100%
赤ちゃん家庭訪問率	100% (H26年度)	98.6%	100%

【平成29年度の主な取組み】

- 不妊・不育症に悩む夫婦への、特定不妊治療費助成事業や不育症治療等助成事業の実施などを行いました。
- 地域の高等学校（2校）を対象にライフプラン教育を実施しました。
- 胎児の健康につながる妊婦の口腔内の健康を保持するため、マタニティ歯科健診事業、妊婦を対象とした歯科健診で、対象者に無料クーポン券を配布し、町内の協力歯科医療機関において、個別に健診を受けていただきました。（対象者14人）
- 安心して出産ができるよう、妊娠中の家庭を対象とした「パパママ教室」を実施しました。（4回実施、延べ28人参加）
- 妊娠中の家庭に対し、訪問相談を行いました。（57件、実施率78.2%）
- 乳幼児健診・保健指導、赤ちゃん訪問、離乳食教室を実施しました。（4か月健診：受診率100%、10か月健診：受診率98.8%、赤ちゃん訪問：実施率98.6%、離乳食教室：実施回数12回、延べ26人参加）
- 生後2週間目電話相談を行いました。（66件、実施率93%）

2. 安心して子どもを育てることができる環境の充実

重要業績評価指標（KPI）

指 標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
子育て交流サロン 参加者数 (おっぱい教室・子育て ワークショップ)	未実施 (H27年度)	約9名/月 (延べ109名)	50名/月
ファミリーサポート センター利用者数	30名/月 (H27年度)	約100名/月 (延べ1,201名)	90名/月

【平成29年度の主な取組み】

- 妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を行うため、「子育て世代包括支援センター」を平成29年4月に設置し、妊娠期から子育て期に渡るまでの切れ目のないきめ細やかな支援を行いました。
- 妊娠届出時にすべての妊婦に対し、一人ひとりの実情に応じた「子育てケアプラン」を策定。安心して出産・子育てに臨めるよう支援を行いました。
- 平成29年度から、妊婦や出産後の親子が気軽に相談でき、参加者同士の情報交換や仲間作りの場として「おっぱい教室」を実施、また、子育て中の保護者が自分の子育てについて振り返り、参加者同士が子育ての喜びや悩みを共有できる場として「子育てワークショップ」を開催しました。（おっぱい教室：延べ76人参加、子育てワークショップ：延べ33人参加）
- 多子世帯、一人親世帯など支援を必要とする世帯に対し、紀宝町ファミリーサポートセンターの利用料の助成を行いました。（助成額：941,725円）
- 生涯において健康な口腔内を保つため、小・中学生を対象に無料クーポン券を2枚配布し、個別に町内の協力歯科医院で受診していただきました。（1回目：173人、2回目：60人）

3. 学校教育・社会教育の強化と充実

重要業績評価指標（KPI）

指 標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
預かり保育利用者数	未実施 (H27年度)	27人	20人
放課後サポートスクール	124人 (H27年度)	116人	150人
サマースクール利用者数	186人 (H27年度)	198人	210人
ウインタースクール利用者数	93人 (H27年度)	113人	110人

【平成29年度の主な取組み】

- うどの幼稚園において、平成28年度にひきつづき、教育時間終了後、および夏休み、冬休みの預かり保育を実施しました。（27名利用）
- 児童生徒の学力の向上を図るため、放課後サポートスクール、サマースクール、ウインタースクールを実施しました。（放課後：116人、夏季：198人、冬季：113人）
- コミュニティ・スクール導入促進事業の研究校指定校として、矢渕中学校において学校運営協議会を設置しました。
- 経済的理由により就学が困難な生徒の保護者に対し、就学費用の一部を援助しました。（高1生：2人、高2生：3人、高3生：1人、1人あたり年6万円）
- 青少年の健全育成を図るため、青少年国際交流キャンプ（12人参加）、地域ふれあい合宿、非行防止パトロールなどを実施しました。

4. 地域コミュニティの充実

重要業績評価指標（KPI）

指 標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
孫の手ボランティア数	未実施 (H27年度)	未実施	30人
紀宝町げんき塾参加者数	未実施 (H27年度)	22人	30人
里親登録数	1件 (H27年度)	1件	2件

【平成29年度の主な取組み】

- 紀宝町げんき塾を9回開催。塾生は22人。「まちの賑わい」をテーマに講義やグループワーク等を行っていく中で、紀宝町の地域課題の検討や、実際のまちづくりへの関わり方、活動方法等の検討を行いました。
- 社会福祉協議会の福祉協力校事業と協働し、相野谷中学校で認知症キッズサポーター養成講座を実施しました。生徒12人の参加があり、認知症の理解を深めるとともに、地域でできることを話し合いました。
- 民生委員児童委員定期会議開催時に、里親制度の普及。啓発を行いました。

■基本目標 2 誰もが働きやすい「紀宝」

成果指標（アウトカム指標）

成果指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
新規創業件数	3件 (H27年度)	累計9件 (2件)	累計15件 (H27～H31年度)
生産年齢人口に占める 就業者の割合	68%（現況値はH22年 国勢調査の実績値）	71%（H27年国勢 調査の実績値）	73%

1. 働く場の創出

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
創業支援セミナーの開催	1回 (H27年度)	2回	2回
就職相談会の開催	1回 (H27年度)	1回	2回

【平成29年度の主な取組み】

- 商工会や金融機関、図書館と協力し、創業相談、創業セミナーを実施しました。（創業相談3件、創業セミナー2回）
- ハローワーク、近隣市町、商工会等と連携し、「紀南地域就職面接会」を開催しました。
- 働く場を創出するため、ビジネスに役立つ情報を提供する「課題解決型図書館サービス」の充実に努めました。（データベース利用：98人、データベース活用講座：2回、県産業支援センター起業（創業）セミナー：1回、出張相談：1回、獣害対策講演会：1回）

2. 商工業の振興

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値
誘致企業（事業所）数	0件 (H27年度)	0件	累計2件 (H28～H31年度)

【平成29年度の主な取組み】

- 企業立地の促進に係る固定資産税の特例、半島振興対策実施地域における固定資産税の特例など、税制面での優遇措置を講じるとともに、規模拡大を希望する企業との意見交換を行いました。
- 商工会や町内の農林水産商工業者と共に組織する「紀宝町商業活性化委員会」において、空き店舗再生事業やスタンプラリー等に取り組みました。
- 新たな特産品や商品開発を行い、地方と地方が直接的につながり、地域の活性化を図るため、青森県藤崎町との連携を行いました。
- 経営の安定化を図るため、(株)日本政策金融公庫の「小規模事業者経営改善資金」や三重県の「小規模事業資金」の借入者に対して、利子補給補助金の支給を行いました。(17件)

3. 農林水産業の振興

重要業績評価指標 (KPI)

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
認定農業者数	37人 (H27年度)	30人	50人
マルチ栽培生産者率	41.2% (H27年度)	47%	50%

【平成29年度の主な取組み】

- 地域特産品のブランディング化を図るため、柑橘栽培高品質化資材補助を行うとともに、6次産業化の有識者を講師に迎えた講座(2回)を開催し、また、6次産業化プランナーによる相談会(2回)を開催しました。
- マルチ資材購入経費の一部を助成しました。(6件)
- チラシやホームページ作成などのPR媒体作成に対する助成を行いました。(3件)
- 森林の適正化を図るため、林道540mの整備を行うとともに、10.58haの間伐を実施しました。
- 地元産材の利用促進を図るための「木造住宅建築促進事業」を実施しました。(8件)
- 漁業関係機関と調整し、浜の活力再生プランを策定しました。

■基本目標3 誰もが暮らしやすい「紀宝」

成果指標（アウトカム指標）

成果指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
人口移動における社会増減	△60人 (H26年)	△83人	△60人
住民アンケート調査で「紀宝町で住み続けたい」と答えた人の割合 (%)	63.9% (H27年度)	—	65.9%

1. 生活基盤の整備

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
生活道路に架かる橋梁全点検数	10橋 (H26年度)	127橋	150橋

【平成29年度の主な取組み】

- 町道に架かる43橋の橋梁点検、及び健全度評価を行いました。
- 平成28年度までに整備した各施設の太陽光発電設備を活用し、自然エネルギーを利用した施設運用を行った。

2. 防災、安全対策の推進

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
町民防災会議における防災訓練、研修会等の実施数	0回 (平成27年度)	5回	8回/年
交通事故発生件数	163件 (H26年)	153件 (H28年)	146件 (H31年)

【平成29年度の主な取組み】

- 「自分の命は自分で守る」という防災意識を高めていくため、町民防災会議を設置しました。本部会議、第1ブロック会議（井田、神内）、第2ブロック会議（成川、鮎田、高岡、北桧杖、瀬原、浅里）、第3ブロック会議（大里、井内、平尾井、阪松原、桐原）、第4ブロック（鵜殿）それぞれにおいて、避難訓練や防災講演会などを実施しました。
- 矢渕中学校と鵜殿3組自主防災組織との合同避難訓練を実施しました。（参加人数：矢渕中学校86名、鵜殿3組自主防災組織39名）
- 避難路や避難場所の整備を行いました。
- 浅里地区、大里地区につづき、鮎田地区において、地区タイムラインを作成し、併せて防災情報の取得先を記載した「台風等気象情報収集ハンドブック」を作成しました。
- 成川地区において、防災（復旧活動等）の拠点として高台整備を行いました。
- 地震による家屋倒壊や転倒による負傷を防止するため、要援護者の家具固定の助成（8件）、木造住宅の耐震診断（30件）、耐震補強設計補助（1件）、耐震補強工事への補助（1件）などを行いました。
- 景観の保全、安全安心なまちづくりのための、「建物解体助成事業」を実施しました。（9件）

3. 健康づくりの推進

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
紀宝町の介護認定率 (65歳～74歳)	4.06% (H26年度)	4.38%	3.90%
紀宝スポーツクラブ参加者数	421人 (H27年度)	364人	450人

【平成29年度の主な取組み】

- 紀宝健康ウォークほか健康増進事業を実施し、そのなかで毎日プラス10分の運動の必要性を説明しました。
- スポーツ振興を図るため、スポーツ大会で優秀な成績を納め、県大会等に参加する場合に補助金を交付しました。（スポーツ少年団、体育加盟団体など24件、676,845円を支出）
- 紀宝スポーツクラブの運営を通じ、健康づくり、青少年の健全育成に努めました。（スポーツクラブ加盟者364人、5競技で交流会を開催、230名参加）

4. 高齢者、障がい者福祉の充実

重要業績評価指標（KPI）

指 標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
地域包括支援センター 総合相談実人員	443人 (H26年度)	450人	570人

【平成29年度の主な取組み】

- 民生委員と連携し、高齢者等の見守りネットワークの構築を進めました。地域包括的支援事業のほか、医療介護の連携や、認知症施策、生活支援体制整備等について、地域包括ケア研究会に参加・協力しながら多職種が連携し、事業を進めました。
- 保健師配置により、住民主体の百歳体操の普及啓発を行い、3地区で週1回の集う場の創出を行いました。

■基本目標 4 交流で賑わいあふれる「紀宝」

成果指標（アウトカム指標）

成果指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
移住者数 (※企画調整課調べ)	8人 (H27年度)	累計75人 (29人)	累計80人 (H27～H31年度)
観光入り込み客数	251,507人 (H26年)	204,283人	260,000人
住宅新築件数	32件 (H26年度)	34件	44件

1. 移住・定住対策の促進

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
インターンシップ生の受け入れ	0人 (H27年度)	累計34人 (6人)	累計40人 (H27～H31年度)
地域おこし協力隊の活用	0人 (H27年度)	累計4人 (3人)	累計2人
空き家バンク登録物件数	8件 (H27年度)	累計25件 (7件)	累計20件
空き家リノベーション利用件数	1件 (H27年度)	累計2件 (0件)	累計5件

【平成29年度の主な取組み】

- カドカワ・ドワンゴ学園と協働し、N高等学校の課外授業として、熊野川の歴史と川船大工体験（6名）を実施しました。
- 地域おこし協力隊制度を活用し、商工・観光の活動を担っていただく地域おこし協力隊を新たに3名採用しました。
- 県や関係団体が主催する都市部での移住相談会に参加し、移住検討者の相談を受けるとともに、PR活動を行いました。
- 定住を促進するため、井田地区にある分譲地を売却（1件）したほか、空き家バンク制度の充実を図りました。（新規登録7件）
- 浅里地区の公共施設を活用し、移住等を考える方などに対し、一定期間紀宝町に住んで紀宝町を体感していただく「お試し住宅」制度を実施しました。（利用件数：2件）

- 若者の定住を促進するため、40歳未満の若者が町内に住宅を新築した場合、固定資産税の減額などを行いました。(16件)
- 若者の定住を促進するため、40歳未満の若者が町内に住宅を新築した場合、町営浄化槽の設置分担金軽減事業を実施しました。(31件)

2. 交流機会の創出

重要業績評価指標 (KPI)

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
農家民宿実施数	2件 (H27年度)	累計2件 (0件)	累計5件
紀宝町応援団会員数	未設置 (H27年度)	82人	200人
婚活事業実施回数	2回 (H27年度)	2回	2回/年

【平成29年度の主な取組み】

- N高等学校の職業体験の受け入れに際し、農家民宿に宿泊してもらい、民宿の方を含めた地元の方との交流を図ることで、温厚な住民性に触れていただき、紀宝町の魅力の一端に触れていただきました。また、三重県観光連盟が運営するホームページ「観光三重」において特設ページを開設し、農家民宿等のPRを行いました。
- 「紀宝町ふるさと応援団」を設置し、ふるさと納税寄付者等に対し、応援団員募集リーフレットを送付し、また、町ホームページなどを活用して団員の募集を行いました。
- 出会いの場を創出するため、出会い交流イベントを2回行いました。(①41名参加、カップリング数11組、②22名参加、カップリング数3組)

3. 観光の振興

重要業績評価指標 (KPI)

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
ウミガメ公園入込客数	188,650人 (H26年度)	149,300人	200,000人
ふるさと納税額	2,200万円 (H27年度見込み)	1,775万円	3,800万円

【平成29年度の主な取組み】

- ふるさと納税制度を活用した都市部でのPR活動や市場調査を行うとともに、ふるさと納税の特設サイトを活用し、特産品の販路拡大を図りました。
- ウミガメ公園を安全に安心して利用いただくため、避難誘導看板を設置したほか、定期的に防災訓練やAED訓練などを行いました。
- 東紀州地域の市町と連携して、金山総合駅（名古屋）や三重テラス（東京）などにおいて、観光・特産品のPR活動を行いました。
- 三重県と県南部の10市町が連携し、車と比較して周遊性の高いバイクライダー向けの情報提供やイベントを実施し、観光誘客を図るとともに南部地域のファンづくりを行いました。
- 「外国人にやさしいまちづくり」を進めるために作成した、多言語版紀宝町観光パンフレット（英語、簡体語、繁体語、韓国語、ドイツ語）を町内の公共施設や道の駅、農家民宿に設置したほか、町外での観光PR時に配布するなど周知に努めました。また、カドカワドワンゴ学園と連携し、外国人ガイドの養成（養成講座：2/24、2/25、3/10、3/11、26名参加）と情報発信スキームの調査研究を行いました。
- 文化財を町文化財に指定し、観光振興や生涯学習等に活用するため、大里地区にある「京城跡」調査・検討を行いました。
- 地域団体と連携し、耕作放棄などの休耕田に景観作物を栽培することで、地域の活性化や新たな観光スポットを創出するため神内地区及び浅里地区において「花いっぱい事業」に取り組みました。
- 浅里地区に地方創生拠点整備交付金を活用してコテージ及び直売・集客交流拠点施設を建設するのにあわせて、地域おこし協力隊や関係機関等と連携し、飛雪の滝キャンプ場を集客の拠点として世界遺産や自然、地域特有の動植物などを活用した体験型イベントの検討を行いました。

4. 交通ネットワークの整備

重要業績評価指標（KPI）

指標	従前値	実績値 (H29年度末)	目標値 (H31年度)
生活道路網の整備率 (5か年の整備計画14.6 km)	16% (H27年度)	44%	100%

【平成29年度の主な取組み】

- 一般国道42号新宮紀宝道路の建設促進、およびミッシングリンクの解消を図り、高速交通体系の確立に向け、国、県など関係機関に要望活動を実施しました。
- 地域内交流、産業の活性化に資するため、生活道路網の整備を計画的に進めました。（町道相野口永田線ほか13路線を整備、130,074千円）

○平成29年度 地方創生交付金事業の効果検証について
 平成30年度 地方創生交付金事業について
 【地方創生推進交付金事業】

資料 4-1

事業名・事業内容	H29実績額 (円)	H30予算額 (円)	H29実施内容
1. 地方創生観光しごとづくり関連事業（広域：三重県・紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町）			
平成29年度事業 重要業績評価指標（KPI）※広域事業のため、東紀州地域5市町の実績 ①東紀州地域における観光消費額：目標：46,523百万/実績：54,712百万 ②地域別観光入込客数：目標：1,850千人/実績：2,096千人 ③伊勢志摩・東紀州立ち寄り率 ・伊勢志摩→東紀州：目標：5.21ヶ所/実績：5.90ヶ所			
①紀宝町飛雪の滝キャンプ場運営検討委員会事務（税務住民課・企画調整課）	106,900	50,000	紀宝町飛雪の滝キャンプ場運営検討委員会： 12/22、1/31、3/16
②世界遺産・自然フィールド体験活用事務（企画調整課）	69,984	50,000	
③京城跡観光資源活用（教育課）	1,944,000	1,900,000	文化財調査・分析委託業務実施
④ふるさと納税等を活用した都市部における特産品販路拡大と市場調査（税務住民課）	252,780	537,000	7/29-30ふるさとちよいすカフェ（東京） 9/2-3東京ビッグサイト（東京） 10/28-29三重テラス（東京） 11/18-19道の駅津かわげ（津市） 11/23ジャズドリーム長島（桑名市）
⑤新規就農や起業などの課題解決型図書館サービス事業（教育）	559,165	360,000	ビジネス図書：297冊貸出 データベース：98名利用 課題解決講座：7/18、11/29、2/26、 3/2実施
⑥農林水産物ブランディング ・特産品6次産業化、人材育成のためのブランド力向上講座（産業建設課・企画調整課） ・地域間連携特産品開発（企画調整課） ・農林水産物ブランディングセールス（企画調整課） ・農産物PR媒体作成補助・柑橘栽培高品質化資材補助（産業建設課）	3,392,061	6,382,000	・ブランド力向上講座：1/23 2/7 ・地域関連系打合せ：11/9-10生産者、販売者他 合計11名参加 ・トップセールス：8/4-5町長、町職員 合計8名参加 ・PR媒体作成補助：3件 マルチ補助：6件
⑦世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業（東紀州地域振興公社への負担金）（企画調整課） ・観光DMO専門的人材育成事業 ・訪日外国人旅行者向け情報発信及び環境整備事業 ・東紀州地域5市町官民共同による海外セールス及び招聘ツアー	2,836,795	2,754,000	東紀州地域振興公社を事務局として広域事業実施
小計	9,161,685	12,033,000	

事業名・事業内容	H29実績額 (円)	H30予算額 (円)	H29実施内容
2. 地方創生子育て移住定住促進関連事業（広域：紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町）			
平成29年度事業 重要業績評価指標（KPI）※広域事業のため、東紀州地域5市町の実績 ①移住に係る行政窓口（空き家の情報提供や移住体験などを担当する各市町の定住移住関連担当窓口）を活用した東紀州地域への移住者数：目標：60人/実績：96人 ②移住相談会への参加回数：目標：30回/実績：33回 ③子育て支援施設の利用人数：目標：20,580人/実績：17,253人			
①出産への不安解消パパママ教室、妊婦全戸訪問事務（健康づくり推進課）	17,920	39,000	パパママ教室4回実施 妊婦57件訪問
②胎児の健康につながる妊婦の歯科健診支援（健康づくり推進課）	73,376	95,000	14人受診
③出産後相談体制強化赤ちゃん訪問等事務（健康づくり推進課）	11,926	7,000	赤ちゃん訪問：69件訪問 電話相談：66件
④子育て世代（高校生から40歳までの男女）歯科健診事業（健康づくり推進課）	88,226	195,000	15人受診
⑤里親制度の周知事務（福祉課）	49,150	50,000	1/16説明会開催（鶴殿福祉センター） 啓発ノベルティ購入
⑥障がい者等支援図書館機能強化（教育課）	1,041,712	1,655,000	図書貸出利用者数：10,948人 図書貸出冊数：50,099冊 2/28、3/1講演会開催 障がい者等支援非常勤職員雇用
⑦紀宝町応援団事務（企画調整課）	210,044	210,000	ニュースレター3回発行 団員82名
⑧都市部への子育てのまち広域連携PR活動（企画調整課）	634,033	1,817,000	7/29移住フェア（大阪） 9/10ふるさと回帰フェア（東京） 1/21移住フェア（東京）
小計	2,126,387	4,068,000	
合計	11,288,072	16,101,000	

○平成29年度 地方創生交付金事業の効果検証について
 平成30年度 地方創生交付金事業について
 【地方創生拠点整備交付金事業】※平成29年度のみ

資料 4-2

第1回 地方創生拠点整備交付金事業

事業名・事業内容	H29実績額 (円)	H29実施内容
1. 地方創生拠点整備交付金事業		
平成29年度事業 重要業績評価指標 (KPI) ①拠点施設 (コテージ) 年間利用額: 目標: 0/実績: 0 ②郷土寿し「なれ寿し」年間販売額: 目標: 1,500千円/実績: 477千円 ③移住者数: 目標: 10人増/実績: 13人増 (地方創生事業関連総数)		
①集客交流拠点整備 (コテージ8棟: 設計監理・工事・浄化槽設置) (税務住民課)	118,387,890	コテージ8棟建設 (4/27オープン)
②観光地域基盤強化事業 (ガイド育成) (企画調整課)	1,890,000	英語ガイド養成講座 (2/24、2/25、3/10、3/11、26名参加)
③観光地域マネジメント事業 (観光マーケティング業務・プロモーション業務) (企画調整課)	2,592,000	公益社団法人 三重県観光連盟に委託し、紀宝町の観光マーケティング及びプロモーションを実施
小計	122,869,890	

第2回 地方創生拠点整備交付金事業

事業名・事業内容	H29実績額 (円)	H29実施内容
1. 地方創生拠点整備交付金事業		
平成29年度事業 重要業績評価指標 (KPI) ①直売・集客交流拠点施設売上 (千円): 目標: 0/実績: 0 ②移住者数 (人): 目標: 18人増 (第2回につき上方修正) /実績: 13人増 (地方創生事業関連総数) ③世界遺産・自然等を活用した体験プログラムの造成 (本): 目標: 2本/実績: 4本 (滝ダッキー、溪流トレッキング、サイクリング、あまご釣り体験)		
①直売・集客交流拠点整備 (設計監理・工事・浄化槽設置) (企画調整課)	103,175,450	拠点施設建設 (4/27オープン)
②拠点施設PR推進事業 (ホームページ作成・広告宣伝業務) (税務住民課)	2,405,070	ホームページ作成 中部・近畿地区で広域的に広告宣伝
小計	105,580,520	
合計	228,450,410	

○平成29年度 地方創生交付金事業の効果検証について
 平成30年度 地方創生交付金事業について
 【一般事務事業分】

資料 4-3

事業名・事業内容	H29実績額 (円)	H30予算額 (円)	H29実施内容
①奨学金支給制度（教育課）	360,000	540,000	6件支給
②木造住宅建設促進対策事業（産業建設課）	4,000,000	7,500,000	8件支給
③建物解体助成事業（産業建設課）	4,459,000	10,000,000	9件支給
④若者定住に係る町営浄化槽設置分担金軽減事業（環境衛生課）	2,030,500	1,310,000	31件支給
⑤小規模事業者振興利子補給事業（企画調整課）	569,000	300,000	17件支給
⑥N高等学校職業体験等実施事業（企画調整課） ※学校法人角川ドワンゴ学園が費用負担	0	0	10/2-6実施、6名参加
⑦おためし住宅制度（企画調整課）	172,925	1,743,000	2件利用あり
⑧小中学生フッ化物歯面塗布（健康づくり推進課）	178,474	400,000	延べ233人塗布
⑨子育て支援のための幼稚園預かり保育（教育課） ※こども・子育て支援交付金で対応	594,858	973,840	27人受入
⑩移住促進のための空き家リノベーション支援事業（企画調整課） ※三重県の補助のみで実施	0	1,000,000	0件
合計	12,364,757	23,766,840	